

第2章

テーマ2 平成18年度第2回「地域の安全・安心をどう守るか」
—子どもの見守り活動を中心に—

平成18年10月18日(水) 午後6時～8時15分

ゲスト報告

川崎市立中原小学校校長 白井達夫

白井 子どもの登下校の安全を守るお手伝いを地域の方にお願ひして、安全パトロール隊が結成された。

子どもを守ることと同時に、子どもを育てることの両立を目指したい。

子どもを不審者から守るのに、行き帰りは親が見守り、学校の中では遮断するといったふうに子どもを大人の手に引き寄せたまましていると、その子どもを守ることが、実は人と関わりを持つ、人を信じる、愛するといった心情を育て切れないことにつながるのではないか。

どんなふうに子どもを守っていくか、一つ目は子ども自身の自ら守る力を育てることがあるのではないか。中原小学校では年2回防犯教室を開催し、安全指導員による指導を受けている。二つ目は学校の敷居を低くし、いろいろな人に学校に入ってもらい、見守ってもらうということ。夏休みのふれあいスクールでは、川崎フロンターレや富士通レッドウェーブ、地域の方などに講座を開いてもらっている。三つ目として、毎朝生徒と先生とが校門に立ってあいさつ運動を行っている。

あいさつ運動を学校だけでなく地域に広げていくというのは、ご近所づくりだと思っている。中原小学校の恵まれた環境として、一つはPTAによるパトロールや子ども110番がある。二つ目は、小学校と中学校の連携が強く、宮内小学校、宮内中学校を合わせた3校で協力して取り組みを行っている。三つ目に地域教育会議が活発なこと。中原小学校、宮内小学校、宮内中学校の3校で開催している。



宮内・中原安全パトロール隊による中原小学校児童の見守り活動



中原小学校校門前でのあいさつ運動

ビデオ報告

川崎市立西丸子小学校、川崎市立新城小学校、
川崎市立中原小学校における地域ぐるみの見守り活動

活動を支えるスタッフから

- 「あいさつを通して、逆に大人の方が元気をもらっている」
- 「異学年の親同士のつながりも生まれた」
- 「この子らに恩返しでやっている。みんなそうだと思いますよ」

主宰者から

- 「西丸子小では、子どもとコミュニケーションを取り、子どもの心を豊かにして犯罪の芽を摘もうとあいさつ運動を始めた」 丸子地区民生委員児童委員協議会会長 青木英光
- 「新城小のあいさつ運動は地域との連携、ボランティアの参加」 前区民生委員児童委員協議会会長 三竹和子

- 「学校としてのうれしさは、あいさつ運動を通して地域と子どもが密接に関わって守っていただけること」
新城小学校教頭 山田義弥
- 「子どもを囲い込むだけだと育たない。このパトロールのいい所は、安全を守るだけでなく、子どもの心も育つ」中原小学校長 白井達夫
- 「地域が復活してほしい。地域が支えあう共同体になれば、それが子どもの安全には一番いい。地域がばらばらになってきたその隙間に、犯罪者が入ってきている感じがしている。隙間を埋めるのは、コミュニケーション、地域の交流。パトロール隊のような人たちの働きで地域がもっと密になればいい、と思っている」中原小学校長 白井達夫



新城小学校校門前でのあいさつ運動



西丸子小学校校門前でのあいさつ運動

会議での意見

- 中原区民生委員児童委員協議会として、あいさつは生活の基本となること、また学校との垣根をできるだけ低くしたいことから、あいさつ運動を始めた。
ある町では、お年寄りが下校時間になると玄関先に椅子を持ち出して腰かけ、子どもたちにあいさつをしていた。ところが何日か見かけないことがあり、子どもたちが気にかけて先生にその話をしたところ、体調のすぐれないそのお年寄りを救うことができたという。
- 青少年指導員とPTAだけでは見守り活動をやり切れないところがあるから、ぜひ町内会などにも輪を広げていきたい。
- 事件については警察とも情報共有して、どの辺りにポイントを置いたらよいか検証をしたらどうだろうか。また、川崎は外から来ている人がたくさんいるので、町内会にできるだけ取り込んで行事に参加してもらえそうな雰囲気づくりをお願いしたい。
- 地域力を高めていくことが大事ではないか。地域で叱り育て、地域で活動していくことを心がけていきたい。また、学校だけでなく地域で見守りを進めていくために、この区民会議を通じて率先して地域の人たちに取り組みを広めていきたいので、協力をお願いしたい。
- 中原区は商店街の活動が非常に盛んだが、安全な商店街、お買い物しやすい商店街をつくっていく一環として、こういった安全・安心への取り組みにも積極的に参画していくことが必要と考えている。商店街としても地域の宝である子どもたちを見守っていく活動にぜひ参画したい。
- 放置自転車をなくす活動をしていると、抑止力について効果があると実感する。ぜひ見守り活動を根気良く続けていただきたい。また、まちに死角のない環境をつくるのも大切な行動ではないか。例えば塀の高さを1mくらいにして見通しのいいまちにすると犯罪の芽が摘めるのではないか。
- 武蔵小杉駅周辺の再開発でこれから新住民がどんどんやってくる。元々住んでいる我々と新住民とが一致団結して子どもたちを守るというような目に見える活動がなければならないのではないか。
- 公共施設、例えば老人いこいの家などで世代交流をし、人権感覚を養ったらどうか。

地域での取組

会議後、木月4丁目共和会では自動車に青色防犯灯をつけたパトロールが始まりました。また、小杉2丁目町会では青色防犯灯の設置を試験的に実施しました。

1. 「木月4丁目共和会－青色回転灯装着車でパトロール－」

木月4丁目共和会では、平成12年に始まった徒歩によるパトロールに加え、平成19年9月から「青色回転灯」を装着した自動車によるパトロールも開始しました。

この取り組みを始めたきっかけは、町会役員からの「もっと防犯活動を充実させよう」という提案。「自動車でパトロールすると、少人数でも町内のすみずみまで回れるだけでなく、町内会は積極的にパトロールに取り組んでいる、ということを知ってもらうようになったよ」と石井信男会長。

というのは、同会はこれまでも、週に1回1グループ6人ほどが小学生の下校時間や夕方の買い物時間帯などにパトロールを行っていました。

ところが今回、「青色回転灯」装着自動車を取り入れたことで、2人1組という少人数でパトロールできるようになりました。今まで週1回だった活動を3回に増やすことができただけでなく、徒歩で回っていたときに比べ、町内の皆さんにパトロールの存在を知ってもらうことにもつながりました。

『ご苦労様』と声を掛けられると励みになる、「パトロールに参加することで、子どもたちや地域の人たちとの会話が增进了」など、やりがいを感じている声が聞かれました。

【平成19年10月取材】



木月4丁目共和会での青色回転灯装着車によるパトロール

2. 「青色防犯灯の試み－小杉町2丁目町内会－」



小杉2丁目町内会での青色防犯灯

小杉町2丁目町内会では、平成19年10月から20年1月までの4カ月間、町内会が設置管理している防犯灯82灯を「白色防犯灯」から「青色防犯灯」へ替えました。これは「防犯に効果がある」と言われている青い防犯灯の効果を確かめるとともに、地域での犯罪に対する意識を高め、街ぐるみの防犯対策を進めることが目的に試験的に実施したものです。

事前に3灯だけ行われた試験設置では「少し暗い」といった意見と同時に「落ち着いた雰囲気」と「犯罪抑止効果」を期待する意見が多く寄せられました。

10月1日には点灯式が行われ、役員が町内をパトロールしました。吉房正三小杉町2丁目町内会会長は「この取り組みを通じ、街ぐるみで防犯に力を入れていることを強くアピールしたい」と話してくれました。

町内会ではアンケートをとり、効果の検証を行った結果、現在でも町内会メインストリートに青色防犯灯約30基を継続して設置しています。

3. そのほかの取組み

[地域で]

- 地域の安全安心情報交換会（井田中学校区地域教育会議主催）で、区民会議での取組みを紹介した。また、近隣の町内会と防犯活動での連携を始めた。
- 新城小のあいさつ運動では、児童の希望により5、6年生が地域ボランティアとともにあいさつ運動を行うようになった。また、あいさつ運動についてのアンケートを実施した。
- 丸子地区は、平成19年2月から子育てサロンであいさつ運動を取り入れた。
- 西丸子小学校では安心安全拡大委員会が設けられ、学校、地域、保護者との連携がとれるようになってきた。
- 木月地区の見守り活動は、民生委員児童委員協議会だけでなく、老人クラブも参加するようになった。
- 小杉町2丁目町会で「子どもの見守り運動」を月3回、行うこととなった。
- 小杉町2丁目町会では、「災害時一人も見逃さない運動」として、要援護者の災害時安否確認のための資料作成などの取組みを始めることとした。
- 「小杉駅周辺エリアマネジメント」では、エリア内で住民の入居にあわせて「わんわんパトロール」をマンションペット委員会委員とともに計画している。
- 中原区安全・安心まちづくり地域推進協議会では、地域全体の防犯・防火意識の高揚を目的に研修会を開催し（平成19年2月20日開催）、高齢者の見守りネットワーク活動などの活動事例報告を通じて区民への啓発に努めた。また、「子ども安全の日」を制定し、地域ぐるみで子どもたちを犯罪や交通事故から守る取組みを開始した。

[学校および行政として]

- 毎月10日の防犯の日を中心に、青色回転灯などを装備した広報車で地域巡回パトロールを実施し、犯罪・火災発生の抑止に努めている。
- 区役所所有の公用車13台に新たに青色回転灯を装備し、平成19年2月から公用車で区内を巡回する際には青色回転灯を点けて区内を走行し、犯罪・火災発生の抑止に努めた。
- 平成19年度から中原区協働推進事業において、青色回転灯を地域での自主防犯パトロールに貸し出す事業を開始した。
- 警察官OBの「スクールガードリーダー」2人を配置し、上丸子小学校を拠点に区内小・中学校、高等学校を回っている。また、地域パトロール隊に対して、見回りのポイントなどの相談や指導をしている。

コラム

<どうして「青色」なの？>

イギリスのグラスゴーという都市で街路灯をオレンジ色から青色に変えたところ、犯罪が減少したことから青い防犯灯について広く知られるようになりました。

日本でも各地で試験的な取り組みが行われています。「青色」には心を落ち着かせたり、見通しが良くなったり…といった色彩効果があるため、犯罪を抑止する効果が期待されているのです。

